

平成29年度

# 事務事業評価サポーター制度の実施状況について

京都市では、事業の実施結果を点検する「事務事業評価制度」を実施しています。

- 事業効果の点検
- 行財政資源の有効活用
- 市民への説明責任

などを目的として、評価を行っています。



しかし、制度を運用するうえでまだまだ解決すべき様々な課題があります。

事業を評価するのに適切な指標が見出せない…。

事業の成果を客観的な数値で把握できない…。

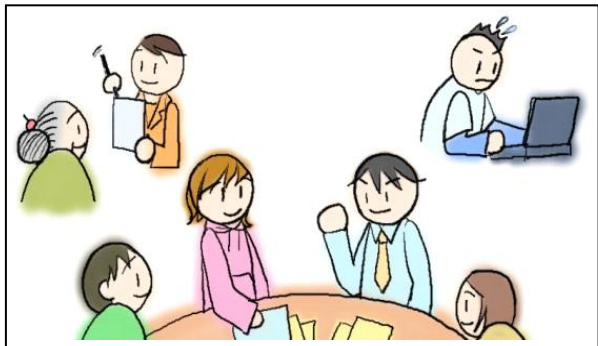
市民に分かりやすい評価になっていない…。



そこで、大学ゼミ等の学生と市役所内から公募した職員とで合同チームを結成し…



事務事業評価制度や、対象となっている分野の事務事業について学んだうえで…



自由な発想、様々な手法で対象分野の事務事業評価をサポートいただき、より良い評価票作りや事務事業の改善に貢献していただきます。

平成29年度の活動対象分野

「産業、商業」、「観光」、「農林業」、

「大学」、「国際化」

(京都産業大学と協働)



京都市

本市では、平成15年度から本格実施している事務事業評価制度について、庁内外への更なる浸透など主として運用面での改善を図るため、平成17年度から大学ゼミ等の学生と本市職員が協働し、事務事業評価制度の改善に対する提案や各職場で行われる事務事業評価の取組を支援する事務事業評価サポーター制度（以下「サポーター制度」という。）を実施しています。

この「平成29年度事務事業評価サポーター制度の実施状況について」は、平成29年度のサポーター活動状況について取りまとめたものです。

## 目次

- 1 事務事業評価サポーター制度とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 平成29年度サポーターチームの活動状況・・・・・・・・・・・・ 4
  - (1) サポーターチームの編成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
  - (2) 活動の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 3 評価委員会への活動成果の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 4 その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 5 サポーター活動を終えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8



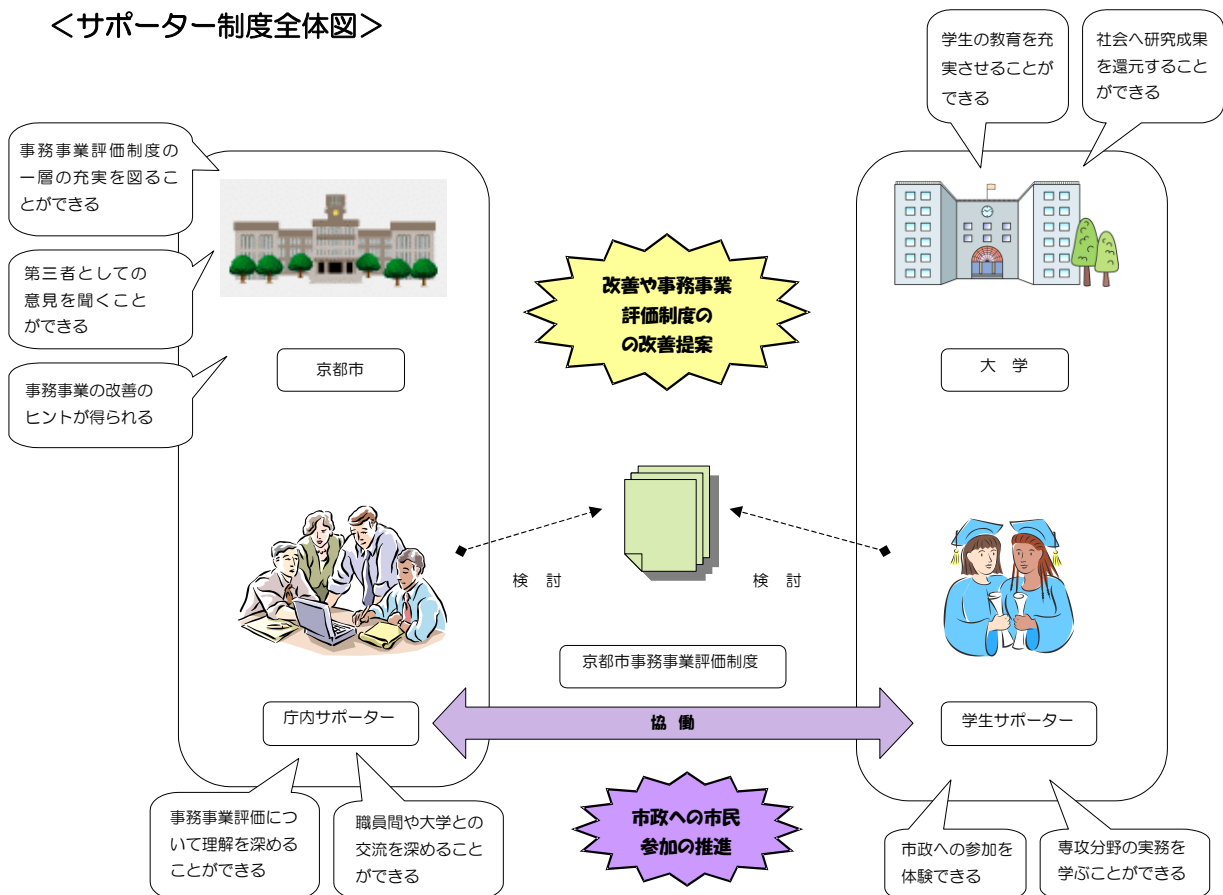
# 1 事務事業評価サポーター制度とは

## ◎ サポーター制度が目指すもの

本市では、平成15年度から、本市が実施する事務事業を対象に事務事業評価制度（以下「評価制度」という。）を本格導入し、仕組みとしては全国的にも先進性の高さを評価いただいておりますが、事業の分野によっては事業の有効性や効率性を図るための指標を見出せない、事業成果を数値で把握することが困難であるなど、評価制度を十分に活用できていないものもあります。また、事務事業に関する客観的なデータや数値目標等を記載した事務事業評価票（以下「評価票」という。）はすべて公表していますが、記載内容が難解で市民に対して分かりにくい部分があるなど、評価制度の運用面での改善が今後の課題となっています。

このため、大学ゼミ等の学生と本市職員が協働し、評価制度の改善に対する提案や各職場で行われる事務事業評価の取組を支援するサポーター制度を平成17年度から実施し、学識経験者など外部の委員で構成する第三者機関である京都市事務事業評価委員会の補助機関として活動していただいております。

＜サポーター制度全体図＞



## ◎評価制度とは

近年、社会情勢の変化、市民の価値観の多様化等により市民のニーズが拡大する一方で、右肩上がりの経済成長が終えんを迎え、地方自治体は厳しい財政運営を強いられています。

限られた行政資源を有効に活用し、高品質で満足度の高いサービスを安定的に提供していくために、行政の取組の成果を把握、評価し、次に生かす行政評価の手法が登場し、成果指向の行政運営のツールとして多くの自治体で取り入れられています。

京都市の行政評価は政策・施策を対象にした「政策評価制度」と、施策目的の実現手段である事務事業を対象にした「事務事業評価制度」等により構成されています。このうち「事務事業評価制度」は、個々の事務事業の妥当性、有効性、効率性などを、事務事業を行う所属が自己評価し、より効果的で効率的な事務事業への再構築を目指すものです。



### <評価制度の実施結果>

事務事業評価 実施年度	事務事業評価 対象事業数 (注1)	今後の方向性					財政効果額
		充実	継続	効率化等	縮小等	終了	
24年度	937 (100.0%)	117 (12.5%)	629 (67.1%)	143 (15.3%)	30 (3.2%)	18 (1.9%)	約 23億円
25年度	930 (100.0%)	125 (13.4%)	600 (64.5%)	165 (17.8%)	28 (3.0%)	12 (1.3%)	約 25億円
26年度	943 (100.0%)	122 (12.9%)	610 (64.7%)	172 (18.2%)	24 (2.6%)	15 (1.6%)	約 25億円
27年度	935 (100.0%)	106 (11.4%)	593 (63.4%)	196 (21.0%)	34 (3.6%)	6 (0.6%)	約 23億円
28年度	953 (100.0%)	106 (11.4%)	628 (65.9%)	194 (20.4%)	14 (1.5%)	11 (1.2%)	約 27億円
29年度	938 (100.0%)	112 (11.9%)	502 (53.5%)	296 (31.6%)	21 (2.2%)	7 (0.8%)	約 36億円

(注1) 前年度をもって終了又は廃止した事務事業を除く。

(参照) 事務事業評価制度ホームページ

<http://www5.city.kyoto.jp/jimuijgyohyoka/>

### ◎京都市事務事業評価委員会とは

事務事業評価は事務事業担当課の自己評価により実施されます。この評価の客観性、透明性を確保するため、京都市では評価委員会を設置し、第三者の立場から評価を行っていただくほか、事務事業評価の手法等についても助言をいただいています。

【京都市事務事業評価委員会委員】（平成30年5月1日現在）（敬称略）

曾我 謙悟 委 員 長（京都大学大学院公共政策連携研究部教授）

山下 満智子 副委員長（一般社団法人和食文化国民会議幹事）

岡 民子 委 員（株式会社ナベル会長補佐）

城戸 英樹 委 員（京都女子大学現代社会学部准教授）

福田 敏信 委 員（あずさ監査法人公認会計士）

<事務事業評価委員会の実施状況>

○京都市事務事業評価委員会

<http://www5.city.kyoto.jp/jimujigyohyoka/committee>

## 2 平成29年度サポーターチームの活動状況

### (1) サポーターチームの編成

平成29年度は、京都産業大学法学部 喜多見 富太郎 教授をチームリーダーとする2つのサポーターチームが、「産業、商業」、「観光」、「農林業」、「大学」及び「国際化」の各分野を対象\*として、平成29年6月から活動を開始しました。

※ サポーターの活動範囲は、「はばたけ未来へ！ 京（みやこ）プラン（京都市基本計画）」における27政策を分割し、5年で一巡するように設定しています。

平成29年度事務事業評価サポーターチームメンバー

京都産業大学 チーム	チームリーダー	京都産業大学 法学部 喜多見 富太郎（きたみ とみたろう）教授
	学生サポーター	27名
	庁内サポーター	10名

## (2) 活動の概要

### ◎ 活動の経過

#### 6月 第1回会議の開催

事務事業評価サポーターの委嘱状を交付しました。  
そして、事務事業評価サポーター制度及び事務事業評価制度について説明を受けるとともに、事務事業評価について、グループ討論及び発表を行いました。

#### 10月 第2回会議の開催

活動対象となる個々の事務事業の内容について、所管課の職員から説明を受けるとともに、目標達成度評価の指標や評価票の記載内容の見直しなどについてグループで点検し、発表を行いました。

#### 10月～ 個別調査、報告資料の作成

評価委員会で報告する事務事業を選定し、事務事業ごとに担当者を決めました。各担当者は、これまでの点検結果を検証するとともに、現地調査や他都市のホームページからの情報収集などを行い、評価票の各指標を含む記載内容及び事業の実施内容についての改善案を検討して、報告内容をまとめました。

#### 11月 第3・4回会議の開催

評価委員会で報告する事務事業について、チーム内でプレゼンテーションを行うとともに、発表内容について、改善点や補強案について意見を出し合いました。

その後、各担当者は、事務事業評価委員会まで、報告資料の改善や発表の練習に取り組みました。

#### 12月下旬 京都市事務事業評価委員会で活動報告

事務事業評価票の点検結果や事務事業の改善案などについて、評価委員会に報告しました。



## ◎ 活動内容

### 1 評価制度について学ぶ

サポーター活動のスタートに当たって、本市の事務事業評価制度について説明を受け、理解を深めました。

### 2 活動対象分野の事務事業について学ぶ

活動対象分野所管課の職員から、活動対象分野の概要や個々の事務事業の内容の説明を受け、その理解を深めました。

### 3 評価票の点検と改善案の検討

活動対象となる個々の事務事業評価票について、以下の二つの視点から点検を行いました。

#### 評価票を点検する二つの視点

##### ① 分かりやすいか？

- 評価票の記載内容は、市民に分かりやすいか  
(「事業概要」等は、事業の内容が理解できる記載内容となっているか)

##### ② 「目標達成度評価」の指標が適切か？

- 適正な指標で客観的に評価しているか  
(事業の「目的」との関係、事業の成果を示す指標となっているか)
- 適切な目標値が設定されているか

点検の対象となった個々の事務事業評価票について、各サポーターが目標達成度評価指標の改善案などを検討しました。

### 4 事業内容についての提案

現地調査や、他都市の実施状況等の調査を行い、事業の目的達成に向けた事業内容の提案や改善案について検討しました。

### 5 点検結果のまとめと報告資料の作成

目標達成度評価指標の改善案や事業の目的達成に向けた事業内容の提案など、点検の対象となったそれぞれの事業についての意見や提案を取りまとめ、評価委員会への報告資料を作成しました。

#### 【サポーター会議の様子】





### 3 評価委員会への活動成果の報告

12月に開催した平成29年度第2回京都市事務事業評価委員会において、「京都どこでもインターネット」、「戦略的企業誘致の推進」など4つの事務事業について、それぞれの事務事業における目標達成度の評価指標や事務事業に対する改善案について、報告を行いました。

【平成29年度第2回事務事業評価委員会の様子】



※ 各事務事業評価委員会の詳細については、以下のホームページを御参照ください。

○事務事業評価委員会について

<http://www5.city.kyoto.jp/jimujigyohyoka/committee>

### 4 その他

11月初めに開催した平成29年度第1回京都市事務事業評価委員会において、各サポーターチームから代表者が評価者として参加しました。

※ 第1回事務事業評価委員会の詳細は、以下のホームページを御参照ください。

○平成29年度第1回京都市事務事業評価委員会の審議結果について

<http://www5.city.kyoto.jp/jimujigyohyoka/993>

○平成29年度第1回京都市事務事業評価委員会における指摘事項に対する見解等

<http://www5.city.kyoto.jp/jimujigyohyoka/1038>

## 5 サポーター活動を終えて

平成29年度に活動いただいたチームリーダー及び学生サポーターから、今回のサポーター活動について、以下の感想をいただきました。

### ○チームリーダーの感想

#### 『地方行政の施策と執務の現場を見る機会』

京都産業大学 法学部 教授 喜多見富太郎

私のゼミでは「比較地方自治体研究」をテーマに各自が任意の自治体を選び相互に政策比較などを行っている。本年度はサポーター制度を活用させていただき、京都市を一方の比較対象として授業を組み立て、自治体事業と同時進行で連携したAL教育を実践できた。サポーター制度は、公開情報だけではわからない自治体の事務事業レベルの政策を解きほぐす機会になるだけでなく、日頃接することのない行政による説明責任の果たし方を当事者の立場から間近に体験できる稀有の学習機会でもある。ゼミ生からは、これまで完全無欠と感じていた自治体の政策に多くの改善点があることに驚きを感じたという声が聞かれたが、自治を主体的に担う市民を育てる教育として有益であった。また委員会でのプレゼンに対する担当課職員からの答弁を題材にして、行政に独特の話法や説明責任への対応技法等を報告後の授業で振り返ることで公務員志望の学生への実践的な学びの場になった。

### ○京都産業大学法学部 喜多見 富太郎チームの学生サポーターの感想

#### 『事務事業サポーター活動を終えて』

京都産業大学 法学部 法政策学科 3回生 赤川拓海

事務事業評価とは何なのかから始まった私たちですが所管課の方たちの手助けもあり、半年を通してなんとか形にすることができて一安心しております。

最初は何も知らない学生が市政に口を出して良いものか不安でしたが、チャレンジ精神で自分が疑問に思うことを若者目線で意識しつつまとめ始めました。後半には最初の不安はなくなり自分の意見が評価票に反映されるかもしれないことに少し期待しておりました。発表を終えた今では最初の不安や後半の期待など半年続けてきたことが一区切りついて達成感と改めてこのサポーター活動を経験できて良かったという気持ちでいっぱいです。

私たち一介の学生がサポーターとして市政に関わることができるのは貴重な経験であり学生の街でもある京都ならではのようと思います。お世話になった職員の皆様、評価委員の先生方に心より感謝申し上げます。

### 『サポーターを終えて』

京都産業大学 法学部 法政策学科 2回生 新井智耶子

この企画に参加して、私はぼんやりと公務員になりたいと思っていましたが、公務員はこんなにも難しいことを熱意をもって地域を考えているのだと実感しました。プレゼン後の所管課の方の受け答えや、評価委員の方の鋭い質問を見たり聞いたりして、ここまでいろいろなことに気を向けて考えていく姿にあこがれを感じるとともに、自分がなりたいと感じていた地方公務員はやはり、面倒くさがりの自分に向いていないのではないかと考えたりしてしまいます。しかし今回のプレゼン制作でいろいろなことを調べていくうちに知らなかったこと、難しいと思って遠ざけていたものが、意外とわかりやすい言葉で書かれたものが多かったのだと感じました。何かを理解しようとする前に遠ざけてしまっていたことをもったいないなと思いました。今回のプレゼン作成をした経験は私が無意識に遠ざけていたことを気づかせてくれました。

### 『事務事業評価サポーターを終えて』

京都産業大学 法学部 法政策学科 3回生 今堀尚透

今回事務事業サポーター制度に参加させていただきとても貴重な経験をさせていただきました。限られた時間の中、喜多見先生や庁内サポーターの方々の助けもあり無事に終わることができました。初めは事務事業評価表を取り扱う慣れない作業に戸惑いなかなか思うように作業が進みませんでした。他都市と比較し、違いを見つけていくことで少しずつ見えてくるものがありました。この活動を通して多くの学びがありましたが特に京都というブランド力の大きさを改めて感じました。またそのブランドを生かした政策を行なっているのが京都市の特徴でもあると思いました。半年間の活動を通して得たものはこれから必ず活かされていくと思います。

### 『事務事業評価サポーター活動についての感想』

京都産業大学 法学部 法律学科 3回生 川崎美寿穂

今回の事務事業評価制度に参加するまでは事務事業評価票を見たことがなかったのですが、作業を進めていくにつれ興味を持ち、自治体が行っている事業を知ることの大切さを知ることができました。また評価委員会では、事業を担当された職員さんの説明など、評価票を見るだけでは分からなかったこともお聞きすることができ、改めて事業に対する関心や理解が深まりました。そして、その職員さんに自分たちの班が考えた指摘や提案を発表するという機会の中で、京都市が行っている事業に携わっているという実感を持つことができました。また評価委員の先生方には、プレゼンを作成している時点では気づかなかったことも指摘していただき、物事を様々な角度から鋭い視点で見なければいけない、ということも学ばせていただきました。

どれも、自分にとってとても貴重な経験であったと思います。

### 『事務事業サポーターの活動についての感想』

京都産業大学 法学部 法律学科 3回生 橋内志恒

私は半年間の事務事業サポーター活動を通して様々な面で成長ができた実感しています。私たちの班は「戦略的企業誘致の推進」という事業を取り上げ製作したのですが、事業内容、事務事業評価表自体が一般市民に対してわかりづらいこと、政策の目的とする点の影響力の広さ等の影響で理解、意見がまとまらず発表形式、指摘と提案が先生や市職員の方々の助言をいただきながら完成までにとっても苦労しました。

しかし、京都市が市民の生活をより良くするためにとても苦労していること、その現場に学生として、それらの事業を享受する一般市民として参加できたことは非常に良い経験になりました。そして社会人の責任の大きさも同時に実感できました。このような活動は一生に一度あるか無いかの大きな出来事だったので参加できたことを大変光栄に思います。そしてこの経験を大いに生かしていこうと思います。

### 『事務事業評価サポーターの感想』

京都産業大学 法学部 法政策学科 2回生 木本侑希

秋学期に京都市事業サポーターとして参加させていただいて、一番肝心な本番には参加することができなかったのですが、本場以前の四回では京都市の職員の方々と一緒に今ある事業について意見交換することができました。率直な意見でいえば今ある事業でも指摘する場所が多くあり、改善しなければならないところが多くて完璧ではないのだということがわかりました。また自分たちが考えた指摘に対して真摯に受け止め、意見していただいた京都市の職員さんにはとても感謝しています。他にもさまざまな種類の事業があるわけなので、自分としては研究していきたいと思いましたが、興味を持てるようになったと思います。また政策をしている理由やその政策の効果が知れてとても興味深かったです。

### 『事務事業評価サポーターについての感想』

京都産業大学 法学部 法律学科 2回生 竹中淳記

事務事業評価に対しての指摘や提案を考えるのに苦労しましたが、何度も班員とグループワークを重ねることで自分とは違う考えや視点を取り入れることができました。また、自分たちの指摘や提案に対し、行政の方から視点の異なる指摘をいただいたことでより良い指摘や提案の改善に向けて取り組むことができました。当初は私たちの意見や指摘で本当に大丈夫なのかという不安が大きかったのですが、行政の方や班員と意見を出し合いながら進めていくうちに、不安よりもこの事務事業をもっと良いものにしたいと思う気持ちの方が強くなっていったのは驚きでした。

今回、事務事業評価サポーター活動に参加させていただき、そこで行政の方や班員と事務事業について話し合えたことは大変貴重な経験でした。今後もこの経験を活かしていきたいと思います。

### 『事務事業評価サポーターを終えて』

京都産業大学 法学部 法律学科 3回生 戸保家哲信

今回、事務事業評価サポーター活動に参加して貴重な体験をすることができました。最初はとても難しそうなイメージがあり、しっかりとした指摘や提言ができるか心配でした。選んだ事業も「戦略的企業誘致の推進」という少し難しいテーマで、あまり馴染みがないため考えをまとめるのにとても苦労しました。しかし、グループのメンバーでの役割分担などの協力や先生のアドバイス、京都市の職員の方々からのアドバイスのおかげで発表資料を完成させることができました。そして発表当日には評価委員の方々から様々な意見をいただき、自分たちの考え方をさらに深めることができました。このようなプロジェクトに参加させていただいて、普段の学生生活では絶対にできない貴重な体験ができました。この経験を今後の学生生活や社会に出たあとも活かしていきたいと思います。

### 『事務事業サポーター活動を終えて』

京都産業大学 法学部 法政策学科 2年生 中井由貴

最初は、事務事業評価シートという存在すら知らないような真っ白な状態から、この活動に参加させて頂きました。まず、事務事業評価を理解するところからスタートだったため、正直大変苦労しました。しかし、先生や同じゼミの人達、市役所の職員の方々から詳しく教えていただくことができ、本当に貴重な体験をすることができました。そもそも、事務事業評価シートというものの自体この活動に参加しなければ知ることもなく社会人となっていたところを、詳しく学ぶことができたことは、今後社会人になったときに本当に役に立つと思います。そういった面からもこの活動に参加してよかったと思います。

また、実際に発表する場を設けて頂いた上、所管課の方や委員の方から詳しい話を聞くことができたこともとてもいい経験になりました。

本当に事務事業サポーター活動に参加することができて良かったと思います。

### 『事務事業サポーターの活動を通じて』

京都産業大学 法学部 法政策学科 3回生 西村耀

今回、京都市の事務事業評価制度に参加させていただいて、成果を具体的に数値化することが困難な事業があること、指標設定が必ずしもその事業の有効性や効率性に直結しないものが存在することがわかりました。また、それらを我々市民側の視点で指摘することはできても、行政に携わる職員の方々の立場でその意見を評価票に反映させることは大変困難であり、両者の立場で京都市の事務事業を考えることのできる貴重な経験となりました。このサポーター活動を通じて、評価票に縛られすぎない学生なりの発想力、どのように改善案を文面化すればより相手に伝わるかといった検討する力、市民・行政両者の立場を考慮するなどといった協調性を養う良い機会になったと私は感じます。不十分な指摘や分析も多々あったと思いますが、普段経験することのできないことばかりでした。この半年間の経験を残り少ない学生生活、今後の就職活動・社会人生活に活かしていきたいです。